



河津の桜 本州一早咲きの桜

静岡県賀茂郡河津町では、毎年2月上旬から3月上旬までの約1か月間、「河津桜まつり」を開催し、期間中、およそ100万人もの見物客で賑わいます。

日本で最も有名な桜の品種の「ソメイヨシノ(染井吉野)」は、見事な花を咲かせつつも、満開から3日ほどで散り始めます。一方の「河津桜」は見頃の期間が約1か月と長く、本州一葉や材の桜として知られています。



河津の桜は、一人の町人が河津川沿いで、雑草の中に芽吹く桜の苗木を偶然見つけ、自宅の庭に植えたことが始まりです。その華麗で淡紅色の花に魅せられた関係者の尽力により、1本の桜が全国に名を馳せるまでになりました。そこには花を愛でる気持ち、「美しい花を多くの人に見てもらいたい」という思いやりの気持ちがありました。



単なる「町おこし」ではなく、それぞれの情熱と一体感が結実し、大きな成果を生み出したのです。

桜を見るということだけでなく、名所旧跡に関わる多くの人の働きに感謝しつつ、日本の風情や文化を楽しみ、後世にも伝えていきたいものです。

「今、一番欲しいものは何？」

ある日、Aさんが妻に「今、一番欲しいものは何？」と尋ねました。すると、「一日、自由な時間がもらえたらうれしいな！」との返事が返ってきました。

「それならば次の休日、家事はすべて引き受けるから、好きなことをすればいいよ！」とAさんが言うと、妻はとても喜んでくれました。当日、妻は嬉しそうに出かけていきました。留守を任されたAさんは、張り切って洗濯、掃除、買い物をこなし、3人の子供たちの面倒をみました。あまりにも目まぐるしく動いたせいか、あっという間に時間は過ぎ去っていきました。夕方、妻が帰って来て、顔を合わせた時の第一声が「あなた、お疲れ様でした！大丈夫だった？」というねぎらいの言葉でした。

Aさんは妻の心遣いにハッとしました。「毎日愚痴一つこぼさず、家事をしてくれる妻にこそ、ねぎらいの言葉をかけなくてはいけない」と思ったのです。以来、帰宅時には妻に「ありがとう！今日もお疲れ様！」と声をかけるようになりました。妻はニコリ笑って、Aさんを温かく迎え入れてくれます。

